

事業名：災害から園児・児童・高齢者を守る「防災まちづくり」プロジェクト
 ～ハードの「防災まちづくり」と連携した避難行動マニュアルづくり～

実施団体：正親住民福祉協議会

目的：正親学区には正親小学校、せいしん幼児園があり、平日の日中、多くの園児・児童が学区内で生活しています。また、学区内には500人を超える75歳以上高齢者が暮らしており、多くの住民の方が学区外に働きに出ている平日の日中に大規模災害が起こった場合、地域が関係機関と連携しながら、園児・児童・高齢者の安否確認や救出救護活動を行う必要があります。



こうした状況を踏まえ、現在取り組んでいる「防災まちづくり」と連携を図りつつ、平日の日中に大規模災害が発生した場合を想定し、園児・児童・高齢者の避難や救出救護の方針、具体的な取組などを関係機関の協力のもとで検討しました。

1. 平日日中の大規模災害時の具体的な取組の検討・実践（～すぐに引き渡しできない児童・園児、高齢者の安否確認・避難に関する対応について～）

取組1（～すぐに引き渡しできない児童・園児への対応～）

避難所に「こども班」を設置し、
 子どもの安全を確保します

▶ 避難所に「こども班」を設置し、引き渡しできない児童・園児は、PTAや民生児童委員会が学校・園と連携を図りながら、引き渡しできるまで子どもの安全を確保します。
 （学区や学校・園、PTA等から取組を説明し、大規模災害が起こった場合に、取組に協力をして頂けるよう保護者の方々にPR）

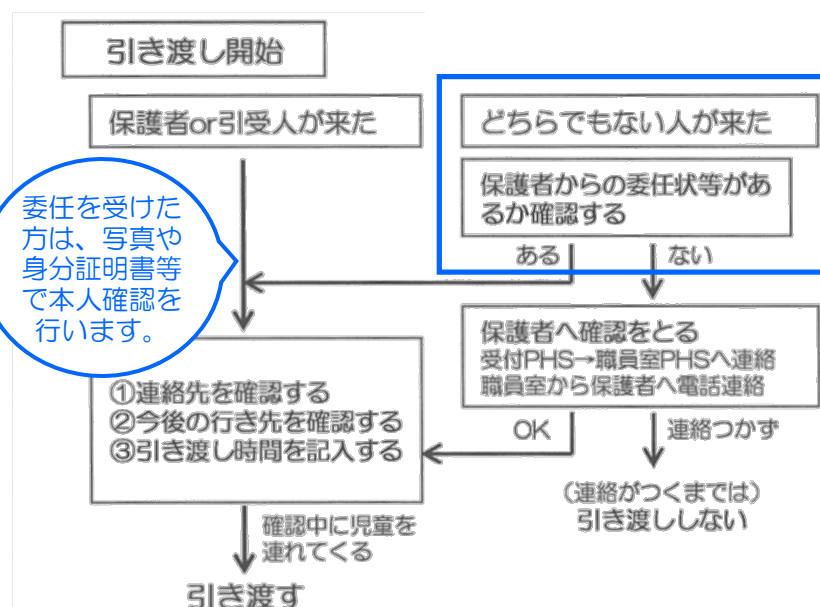
▶ 小学校3階の図書室を、引き渡しができない児童の居場所として活用します。

役割	担当	活動内容
代表者・副代表者	住民協議会（会長・副会長）	要配慮者への配慮、管理・運営の申合せ、施設管理者及び区・支所災害対策本部との調整・統括、避難所運営協議会の統括等
総務班	自主防災会	運営協議会内の連絡・調整、代表者会議の準備・記録、区・支所災害対策本部及び関係機関との連絡・要請窓口等
情報広報班	自主防災会	情報収集と総務班との連絡・調整、収集した情報の多様な手段での避難者等への提供等
管理班	PTA	避難者の把握・リストの作成、避難者等の入退所管理、訪問者の受付、マスコミ等部外者の出入管理、施設の警備、利用管理等
保健衛生班	保健委員会	感染症予防（手洗い・消毒の励行推進）、生活衛生環境の管理
救護・要配慮者班	体育振興会	傷病者への対応、要配慮者への対応、被災者の健康状態の確認
食料班	なでしこ会	食料・飲料水の配給、炊き出しの配給
物資班	交通安全会	救援物資・日用品物資の調達・管理、避難者への配給、在宅被災者への配給方法の掲示・配給
ボランティア班	民生児童委員会・老人福祉員	ボランティアニーズの把握・受付、ボランティアの要請、ボランティアの配置・調整
こども班	PTA、民生児童委員会、小学校、幼児園	子どもの心のケアにも配慮しながら、保護者世帯等が引き渡しに来られるまで、引き渡しができない子どもの安全を確保

取組2（～すぐに引き渡しできない児童・園児への対応～）

事前に親世帯から委任を受けた方が
 子どもを保護できるようにします

▶ 年度初めに、保護者が引き渡しカード（災害時用）に記入して届け出る形を基本として、親世帯から委任を受けた方が引き渡しできない子どもを保護する仕組みをつくりまします。
 ※委任する方は、あくまでも親世帯の意向・申請を基本とします。
 ※引き渡しの基本は親世帯であり、災害発生後6時間経過後など、一定時間を経過しても引き渡しできない子どもを対象とします。



取組3（～高齢者の安否確認・避難に関する対応～）

町内会で大規模災害時における
 安否確認の希望者を把握します

▶ 毎年度、敬老会の際に町内会単位で把握する75歳以上の高齢者について、調査に合わせて大規模災害時における安否確認の希望を把握し、町内会で共有します。

※町内会で共有した情報は、避難所での確認用に住民福祉協議会に提出して頂きます。

※個人情報保護の観点から、原則、公開しませんが、生命や財産に危険が生じる場合は公開します。

大きな揺れを感じたら・・・

- 自分の身の安全を確保しましょう
 - 火元（ストーブ・ガスレンジなど）の安全確認
 - 避難するときのために出口を確認
 - ガスの元栓、電気ブレーカーを閉める
 - ラジオなどで正確な災害情報を収集
 - 家族の安否を確認
- 「地域の集合場所」に集まりましょう

町内会で事前に把握している大規模災害時における安否確認希望者について、町内会長や防災部長、元気な方々で安否確認や救出・救護を行います。
- 「正親小学校」（避難所）に避難しましょう

各町の避難者数や被害状況を本部（自主防災会）に報告してください。学区全体の状況を把握し、今後の救助計画を検討します。

避難するときには・・・

- 非常持ち出し品のチェック
- 避難路（自宅～集合場所）の確認
- 家の戸締りや非常持ち出しリュックの持参
- 隣近所（特に要援護者）の安否確認
- 歩きやすい運動靴で避難

大阪府北部地震（6/18）の際、訓練どおりに円滑に児童の引き渡しを実践

（1時間で約7割の児童の引き渡しを完了、1時間後残っている児童は図書室に移動、約3時間で児童の引き渡しを完了）

夜間安否確認訓練（6/2）における訪問先の高齢者を選ぶ際に活用

（令和元年度より本格運用を予定）

2. 平日日中の大規模災害時における地域の具体的な取組の訓練（～平日日中災害を想定した図上訓練（DIG）、避難所運営ゲーム（HUG）による訓練～）

「防災リーダー研修」として、平日日中災害を想定した安否確認・救出救護活動の図上訓練（DIG）を行いました！（9/27、10/1）

図上訓練のポイント

- ①自分自身・自宅の安全確認の後、30分後を目途に「地域の集合場所」に集合
 - ・「地域の集合場所」への避難経路は安全？
 - ・「地域の集合場所」は安全？
- ②集合後、役割分担しながら高齢者等のお宅へ安否確認・救出救護
 - ・安否確認、救出救護が必要な高齢者のお宅は？
 - ・安否確認、救出救護の活動ができる人は？
- ③子どもや高齢者に寄り添って正親小学校（避難所）へ移動
 - ・「正親小学校（避難所）」への移動に寄り添える人は？
 - ・自宅に留まる人は？

午前10:30
震度6強の
大地震が発生！

参加者のみなさんのご意見

◆『防災まちづくり意見交換会』について

- ・いろいろと役立つお話であり、有意義でした。
- ・大変良かったです。大変勉強になりました。
- ・今日は色々と学ぶところがありました。
- ・「地域の集合場所」や避難経路などが再確認できた。
- ・自分の町内だけでなく周辺の町内のことも知ることができて良かった。
- ・防災について、いろいろと考えさせられました。実際、地震などがあつたらどうしたらいいか、今後も考えていきたい。
- ・このような場所に参加することで防災についての情報を頂き、考えさせられることができて良かった。
- ・防災に対して色々な意見が聞け、意見交換ができて有意義だった。
- ・現実を見据えて考える機会でありました。
- ・地震を予想しての行動について参考になった。

◆平日日中の災害時の対応について

- ・若い人が不在になり高齢者の対応が重要。
- ・実際、地震が起こった時、どのように行動するか、自分が動ける状態か不安。
- ・町内の住民はお互いに年を取っていて、助けに行ける人が助けるように思います。若い人はほとんど外出しているようです。
- ・ご年配が多い町内なので組長などをお願いをして安全確認をしなければいけない。若い方がお手伝いできるようにすることが大切。
- ・町内では高齢者も把握しており、災害が起きた時に見守りもできそう。
- ・町内全員が参加し意識レベルを合わせる場がないと、実際に何かが起こった後だと機能しなくなる可能性がある。
- ・新しい家が少ないので大変かも。
- ・町内会未加入者、ツーリストの方への関わり度合いが悩ましいです。
- ・正親学区には路地が多いと改めて認識した。災害に強いまちづくりが必要であると感じた。



子どもたちが考えた路地の愛称も確認しました！

安否確認、救出救護が必要な高齢者のお宅を確認しました！

どなたが安否確認、救出救護活動ができるかを確認しました！

大規模災害時の避難所運営の訓練（HUG）を行いました！（3/25）



幼稚園で引き渡し訓練を行い、地域が見守りました！（1/18）



今年度も、小学校と幼稚園が連携した避難訓練（シェイクアウト訓練）を行いました！（3/11）



成果：今年度は、平日日中の大規模災害時に地域ができる3つの取組を継続して検討し、実践を重ねながら、学区の防災力を高めるために訓練等に取り組んできました。（豊富）今後も、これらの取組を継続・実践しながらブラッシュアップし、安心・安全に住み続けられる災害につよいまちを目指して「防災まちづくり」を継続していきます。